

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成24年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>より良いサービスのためにケアの向上を図ることを目指し、自己啓発能力強化のため、運営者は職員に対し、外部研修への参加推奨や書物等の購入についても惜しみない支援をしており、職員は充実した職場環境の下、入居者に対する質の良いケアの還元へと繋がっている。</p> <p>施設母体が医療機関であり、主治医でもある運営者がほぼ毎朝訪問し、入居者と挨拶を交わすことで安心感に繋がっている。24時間体制での健康管理や重度化、看取りについても終の棲家としての役割を果たしていくよう、病院との連携がとれており、入居者や家族が安心して生活することが出来る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「心が癒され安らぎのある家庭的な家(はなは)」を掲げており、地域住民と触れ合い、協力しながら、その人らしく安心した生活が送れるよう、職員は日々理念を振り返って共有しながら、入居者主体のケア実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節毎の行事への参加や町内の方からの手作り野菜・果物の提供、町内周辺的环境整備、災害時の助け合い等、協力して、助け合いながら、年々交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の散歩や行事での交流時、総会出席等で認知症や介護保険等について説明をすることで、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的を実施しており、施設の活動や入居者の様子、認知症についてお伝えしている。その中で、皆様から積極的な質問、意見、助言等をいただき、即検討してサービス向上に繋げている。昨年度からは家族の参加者も増え、更に活発な意見交換がなされている。また、会議録を作成し、全家族に配布している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席していただき、情報提供や助言をいただきながら業務に活かしている。また、日頃から電話やメール等で問い合わせ、相談・指導を受けている。生活保護担当者も定期的に来訪し、入居者と面談して、本人の様子を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外・内部研修や日常の中でマニュアルを基に周知徹底し、お互いが助け合い、協力しながら日々振り返り、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。外出傾向がある入居者については、3館が情報を共有し、協力しながら他館訪問時や戸外にも注意を向け、連絡・協力体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、職員全員が意思統一し、お互いが見過ごさないように助け合って「しない」「させない」ことを徹底して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施して理解を深めている。個々の状況に応じて、家族やケアマネージャーと必要性について相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時はできるだけ十分な時間をとっていた。契約書、重要事項説明書に基づいて、項目毎にわかりやすく説明を行い、理解を得ている。疑問点は即解決に向けて対応し、安心して入居できるように対応している。重要事項説明書改定の際は、資料等を添えて説明を行い、納得いただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から言動や表情の変化に注意を向け、コミュニケーションを取りながら、思いや不満を汲み取り、早期改善に努めている。家族には定期的に身体状況を含めて生活全般について報告を行い、意向を確認している。また、運営推進会議への出席も、機会がある毎に声をかけて促している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング、ケース記録を行う時を利用して情報交換し、入居者と直接関わりの多い職員の意見を大切に受け止め、改善に向けている。職員は日頃から3館で交流を持っており、入居者と顔馴染みの関係となり、異動時は混乱なく引き継がれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の職員の健康診断を行い、健康管理を行っている。また、勤務の希望についてはほぼ受け入れ、個々の状況に応じて配慮しながら、働きやすい職場環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修を積極的に推進し、年間研修計画にも業務に支障なく多くの職員が受講できるように計画を盛り込んでいる。また、研修を個々の知識に留めることなく、研修報告書を作成し、職員全員に周知している。職員は認知症介護の専門職として、その研修を活かし、日々実践の中で感性を育てながら、より良いケアに向けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの行事や勉強会の参加等を通じて、入居者、職員の交流を深め、情報交換の場として、また、スキルアップへと繋げている。グループホーム協会にも加入し、研修会等で交流しており、情報交換の場となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、家族とゆっくりお話しができる時間を設けていただき、求めているもの、困っている事は何かを相手の立場に立って理解した上で、施設での生活を説明し、一緒に考えながら安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくりと話をする時間を設けていただき、家族の思いや不安な事を理解して受け止め、いつでも相談に応じる姿勢を示すことで不安を軽減し、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族より情報を詳しく聞き取り、今必要としているサービスは何かをよく話し合っ見極め、当施設の対応やケアマネージャー、関係機関からも情報収集しながら、適切なサービスに向け支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の持っている力を見極めて、引き出ししており、食事の準備・片付け・掃除・衣類の片付け等、生活のあらゆる場面でお互いに助け合い、教えていただきながら共に支え合い、必ず感謝の言葉を添えて、より良い関係づくりに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、受診報告等、機会ある毎に入居者の様子を伝え、本人の思いを共有し、一緒に考えて話し合う場を持ち、本人にとって何が必要なのかを相談・協力しながら、共に支え合っていくことを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にしている人間関係や馴染みの場所をセンター方式を活用して把握し、家族の協力を得ながら、希望に沿って対応ができるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や日々の入居者の繋がりを把握し、環境へ配慮している。また、コミュニケーションや家事の手伝い等において職員が介入し、お互いが協力して楽しみながら、良好な関係を保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できる限り今までの生活を継続できるよう、家族了承の上で、退居先への詳細な情報提供を行い、混乱なく安心して生活できるように支援している。家族にはいつでも相談に応じる事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルを大切にし、生活の場面において、本人の希望に沿ったケアに向けて意思確認を行い、取り組んでいる。意思確認ができない方は表情や言動、仕草に目を向けて観察し、職員間で情報共有して話し合いの場を設け、思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関からの情報収集やセンター方式を活用し、生活環境変化での混乱が生じないように、本人主体のサービス提供に向け、職員が情報共有して支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の情報収集も含め、生活の中で健康観察や様々な場面関わっていただきながら、できる力や生活習慣、興味を示される事等の生活全般に関して記録し、申し送りすることで現状の把握、情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式・MMSE(認知症のテスト)の活用、サービス担当者会議や日常の中での本人の言動や思いの把握、家族の意向等の情報を収集し、職員間で話し合いながら、その人らしい生活に向けて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に活動の様子や健康状態、本人の言葉、気づき等の記録と、ケアプラン実施記録表の評価・実施状況の記録を職員間で振り返り、情報交換しながら介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助はその都度送迎介助を行っている他、主治医以外の病院受診時にも家族と相談し、協力しながら関わっている。また、本人希望による一時帰宅の送迎にも家族の理解を得て対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町内の方にも出席していただき、親身になって相談・助言をいただいている。災害時には地区消防団との協力体制もできており、入居者、職員共に心強く、安心して生活している。また、施設周辺の草刈りにも協力いただき、衛生且つ安全な環境づくりにも気遣いをいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の系列であり、入居者は全員が運営者でもある医師が主治医となっており、運営者はほぼ毎朝施設を訪問して入居者と触れ合ったり、心配事の相談に応じている。個々の認知症状を把握しており、受診時、入院時は情報共有し、その方に合った適切な対応をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師が配置され、24時間連絡が取れる体制ができており、主治医と連携を取りながら対応している。日々の入居者の情報を共有し、日常の健康管理や体調維持の相談・アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に混乱なく治療が受けられるように、家族にも立ち会っていただき、施設からの情報提供や障害の状態を詳しく伝え、主治医、家族、看護師、職員で相談・話し合い、必要な治療が受けられ、早期退院ができるようお互いに協力し、取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては医療連携体制、看取りに関する指針を整備しており、家族には施設でできる事を十分に説明して理解をしていただいている。日頃から本人・家族の意向を確認しながら、状況に応じて本人・家族・主治医・看護師・職員を交えて話し合っていく事を申し合わせている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、勉強会を行って、混乱なく対応及び連絡体制が取れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアル、緊急連絡網を作成し、年2回と不定期に昼夜想定総合訓練を実施している。また、大震災をきっかけに、災害時・停電時の物品備蓄を充実させ、避難場所も公民館の利用や施設開放を申し合わせ、地域との協力体制を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いやその人らしさを尊重して受け入れ、言葉掛けや思いに沿ったケアに向けて取り組んでいる。また、プライバシーや個人情報保護のマニュアルに沿って研修を行い、日常においても機会ある毎に振り返り、周知・徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような雰囲気づくり、声掛け、場面づくりの工夫を行い、本人の思いに沿った暮らしづくりに向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いや生活リズムを大切に、その日の体調や状況に合わせ、希望や楽しみ事を取り入れており、心地よく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容院の方が来所され、入居者の希望に応じて利用している。また、外出時には本人と相談しながら好みの身だしなみに整え、良い気分転換へと繋がるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夏季は目の前にある畑の野菜の生育状況を眺めながら、収穫と調理方法の希望を聞くことで、食卓を飾る時を楽しみとしている。また、入居者個々の力量に応じて、食事の下ごしらえや盛り付け、後片付けを職員と一緒に協力しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、できるだけ多くの食材を献立の中に取り入れるように工夫している。個々の嚥下・咀嚼状態に応じて、刻み食、ミキサー食、とろみを付ける等して食事量の確保に努めている。また、食事・水分量を記録・観察し、必要量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし、個々の状況に応じて歯磨き、義歯洗浄、うがい、消毒を職員が見守り・介助して関わっている。また、口腔内の状態を観察し、トラブルの早期発見に努め、家族に報告し、受診に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を観察・記録して排泄パターンを把握しており、トイレでの自力排泄に向けて、事前のトイレ誘導を行っている。また、トイレの際の声掛けや失禁時はプライバシー・自尊心に配慮した声掛け・対応を意識して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に向けて食事は食物繊維や乳製品を取り入れている他、日常生活の中で体操・散歩・歩行運動・家事手伝い等で身体を動かすことを進めている。排便状態を記録・観察し、困難時は看護師や主治医と相談しながら、下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	安全で気分よく入浴できるよう入浴前には健康観察を行い、環境を整え、個々の身体状況・入浴習慣を把握して、その方の思いに沿った対応をしている。拒否のある方には時間帯や言葉掛けを工夫し、職員が協力しながら、無理なく安心して入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調を考慮し、日中は軽作業や活動の機会を盛り込んで身体を動かしたり、適度な休息をとっていただきながら、夜間の安眠に繋げている。夜間眠れない方には、側に寄り添ったり、話を聞いたりして安心に向けて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容や用法を明記したカードを作り、飲み忘れや誤薬のないように確認の場を重ねて設けて、服薬支援に繋げている。また、内服薬については処方箋の確認を行い、用効や副作用について把握しており、服薬の変更や症状の変化があった場合には、薬剤師、看護師、主治医の指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やできる事を日々観察・把握し、日常の中で役割を持つことで、生活への張り合い・活気へと繋がっている。また、家族におやつ購入の協力をいただき、時にはおすそ分けする事が本人の楽しみとなっていて、コミュニケーションにも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画、買い物、地域行事(祭り等)の参加、他施設との交流等、入居者の意向に沿って支援している。また、お盆、正月等は本人の意向を確認し、家族に相談しながら一時帰宅の支援にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がなく、家族の了解によって少額を小遣いとして預かっている。小遣いで毎月買い物し、小遣い帳の記載と現金残高を合わせる作業を職員と一緒にやっている。その小遣いの中から貯金をする事が本人の楽しみに繋がっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい、手紙を書きたいという思いがあってもできない方には、本人に代わって電話の取り次ぎをしたり、手紙においては本人の伝えたいことを聞き取り、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には広いスペースが設けられ、ゆったりとできるホールや食堂がある。また、ホールからは外の景色や畑を見渡すことができ、野菜の成長を楽しんだり、四季の移り変わりを感じながら過ごせる場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・食堂は一人ひとりがその時々で思い思いに居場所を選び、自由に過ごされている。その中で職員が付き添い、皆で歌を歌ったり、レクリエーションを楽しむ時間づくりもしている。また、事務所や和室はいつでも利用できるよう開放し、職員とのコミュニケーションや一人でのんびりと過ごせる場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の馴染みの生活を可能な限り継続できるように入居者・家族と相談し、愛用していた物や大切な物を持ち込んでいただき、本人が落ち着ける居室づくりに配慮している。希望に応じて畳を敷くこともできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に安心して生活できるように、個々の身体状況、認知症状を観察・把握し、職員間で情報を共有している。場所の表示や移動スペースを広く取る等、個々の混乱や危険要因に対して検討し、対策を考え、環境改善に取り組んでいる。		